



あたらしいお部屋！

7月5日、足羽更生園は利用者の方個々人の障がい特性や個人のプライベート空間を重視するため、利用者の方の部屋は完全個室に移行し、より細かな生活環境を提供できるようユニット型住居に生まれ変わりました。今回は、新しくなったお部屋ができるまでの経緯や利用者の方の様子・感想などをお伝えします。

ユニット化するために

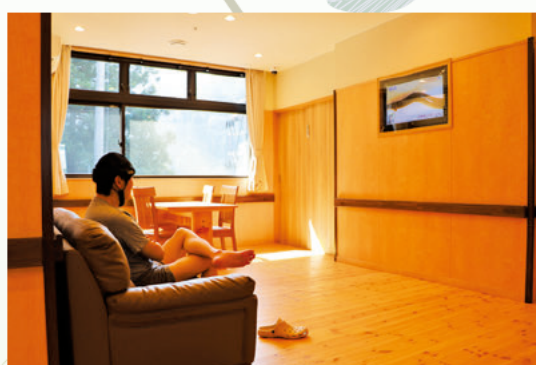
足羽更生園では、重度の知的障がい者の方々が入居されておりますが、その生活環境においては旧施設基準に基づき手狭な居室や相部屋となっておりました。障がい特性や年齢、防犯面等を考えた場合、現状の環境は合理的配慮に基づく充足された施設環境と言える現状ではありませんでした。

今回の新築工事において、現状施設整備基準を満たした上で、生活する利用者の方の年齢や障がい特性・支援度等で細分化し、ユニット化・完全個室化による安心・安全な居室環境、プライベートを尊重するための改善となっております。

園長 嶋田富士男



あたらしいお部屋！



くつろぎの空間



あたらしい
おうち
きれいで快適！

昨年夏から始まった足羽更生園の解体工事。利用者の方にとっては大きな生活環境の変化となりましたが、事前に改修工事にて仮住まいの環境を整え、繰り返し丁寧に職員からの説明を行いながら進めたため、大きな混乱もなく、スムーズに移行することができました。建物を取り壊していく様子や、作業員さんが高所を歩きながら作業する様子を、興味津々の様子で長時間じっと見つめる光景がとても印象的でした。建物の外観が見え始めると「あたらしいお部屋！」と、興奮する声があちらこちらで聞こえてきました。



あたらしいお部屋の居心地は最高！
大好きなカンフー映画を
思う存分観るぞ！

お部屋きれいでうれしい
です。
ごはんもおいしいです！
もっとおかわりしたい！



まとめ
新しい居住スペースでの生活がスタートしました。建設中は、仮居住棟での狭い生活となっており、利用者の方にはご不便をかけていきましたが、建物ができていく様子を見ながら今から始まる生活に思いを膨らませていました。
今、新しいお部屋で、ご家族が選んで下さったベッドやお布団など今まで以上に各居室が個人の空間となり、生活を満喫し始めています。各ユニットでは、職員がご飯を炊く、お味噌汁を作る等しており、身近に「暮らし」を感じられるようになりました。
今までの大人数ではなく、ユニットという少人数での暮らしとなり「生活を楽しむ」を主観に利用者の方の想いをくみ取りながら、いろんな経験を積み上げていけるように職員一丸となって取り組んでいきたいです。

副園長 岡崎ゆかり